

キーワード：

- 望ましい学習態度の育成
- 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

学力向上に向けた取組

函館市立昭和小学校

1 課題

- 「学びの構え」の定着
- 言語活動の充実

2 課題解決の具体策

- ①学年の発達段階や実態に応じた「学びの構え」の確立
- ②「聞くこと」を重視した授業展開の工夫と、朝学習や家庭学習への取組

3 取組の概要

①について

各学年における基本的な「学びの構え」を共通理解し、日常の指導の中で具現化を図った。

具体的な内容としては、姿勢・学習用具・文字・音読・挙手・その他各学年やブロックにおける共通事項等を定め、各教科や領域等において、意識付けを図った。

また、教室内に、「学びの構え」に関わる掲示を行うなど、日常から児童が視覚的に「学びの構え」を意識して活動できるように、環境整備にも工夫を行ってきた。

②について

国語科を窓口とした研究の中で、研究授業を全員公開とした。授業公開に際しては、各学年共に「聞くこと」を重視した授業展開を工夫し、改善を加えながら、児童の学びを育む体制をつくってきた。

また、全国学力・学習状況調査やC R T検査の結果を分析し、言語事項の定着にポイントをしぼり、朝学習や家庭学習に取り組んだ。

4 成果と課題

- 「学びの構え」を常に児童に意識させることにより、各学年共にその定着が図られた。
- 「聞くこと」を重視した授業展開を工夫することにより、児童の授業へ向かう姿勢が向上し、集中して学習に取り組むようになってきた。
- 「認め合い」や「学び合い」を生かした学びをさらに意識しながら実践していきたいと考える。
- 昭和小の教育の特色である、2期制4ステージのメリットを生かした評価の在り方を探っていくことにより、指導と評価の一体化がさらに図られると考える。